



かぜをひくのはなぜ

かぜって何だろう

かぜをひくと、熱が出て、鼻やのどの具合が悪くなったりします。

かぜは一つの病気ではなく、鼻やのど、肺など、呼吸器官のねん膜（表面が湿ってぬるぬるとしたうすいまく）におきる、熱、いたみ、はれをともなう病気の、すべてを指しています。ですから、ひと口にかぜといっても、いろいろな種類があるのです。

かぜをひくのは

かぜの元になっているのは、空気中を飛び回っている、目に見えないウイルスや細菌という小さな生き物です。ウイルスや細菌は、かぜをひいている人の口から出て、空気を伝わって、ほかの人の口を通して、その体に入ったり、ウイルスや細菌のついたものにさわった人の、手から、口を通して入ることもあります。

健康なときには、体が、ウイルスや細菌をおさえつけることができますが、体が弱っていて、体の抵抗力が弱くなっているときには、これをおさえることができず、ウイルスや細菌は、体の中で増えつづけ、人間の体は病気になってしまうのです。

ウイルスや細菌が、もし、鼻で増えていけば鼻炎、気管支ならば気管支炎、胃なら胃炎、腸なら腸炎という病気になりますが、これらのように、まだ、病気の軽い状態のときを、かぜといっています。（監修・保志 宏）

